

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION



Vol.44/No.1
SPRING 2023

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

BUMPED BACK ISSUE

トローリング開放要望

Request to Open Trolling for Amateurs

イベントレポート

Event Report

若林務さんインタビュー

Isutomu Wakabayashi Interview

オールジャパン GFC 結果報告

All Japan GFC Result List

シーバスフォトコンテスト

Sea Bass Photo Contest Winners

And more



過ちて改めざる、是を過ちという。

あまりに有名な、孔子の言葉とされているものです。私たちは、生きていくうえで多くの間違いをしている実感がありますが、その間違いが判明したとしたなら、ダメージコントロールのためにできるだけ早く是正を試みたほうがいいよ、というのが孔子の教えなのでしょう。

ゲームフィッシュを取り扱うやり方も、時代が変わると大きく変化が訪れました。昔、盛大な規模で行われていたゲームフィッシュの移植は、相當に慎重を期されるようになりました。たとえば英國からオーストラリアまで、汽船でアトランティックサーモンやブラウントラウトの発眼卵を運ぶといったかつての時代に行われた大事業に類似するものは、もう存在し得ないでしょう。私たちが科学の知見とデータを結集して実施していたと思っていた、ゲームフィッシュの孵化放流事業すら、野性魚の血統に大きな悪影響を与える、ないし実際の効果がないというデータすら出始めたのです。それらの研究は個別の川、水系、水域で行われたものがほとんどで、汎用性を持つかどうかはこれから検証を待たなければならないのですが、少なくとも私たちが誤っていた可能性は大きいことを示唆しています。たとえば、北海道大学の地球科学研究院で助教を務められている先崎理之さんがつい先頃発表された論文 "Intentional release of native species undermines ecological stability" は、孵化放流がその水域に住む魚の種数や密度、生態系の安定性を引き下げてしまうことをあきらかにしています。同様のことは、米国西海岸に遡上するサーモンやスティールヘッドを研究している多数の学者が繰り返し述べています。

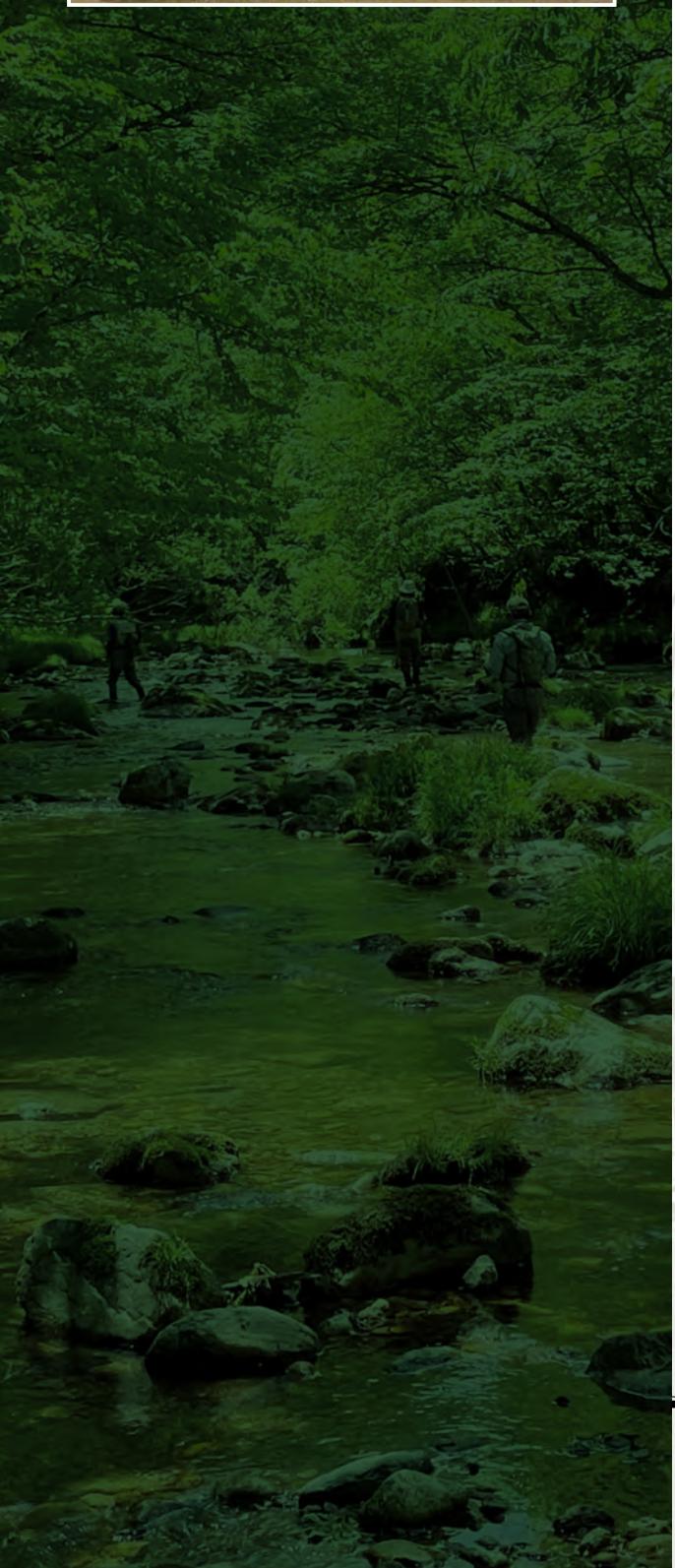
私たちは、過ちてのちに改めることはできるのでしょうか（しかも手遅れにならないうちに）？ 今回掲載した若林務さんのインタビューは、あきらかな過ちを改めようとしたアングラーたちが残した、良い実例を語ってくれています。研究者、アングラー、水産関係者、消費者、一般市民、皆が力を合わせないと、見えにくい水の中に住む魚たちを守ることは、なかなかできないようです。

JGFA NEWS
FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING
BUMPED BACK ISSUE

Vol.44/No.1
SPRING 2023

TABLE OF CONTENTS

巻頭のことば 01
トローリング開放要望に関して 03
イベントニュース 05
オールジャパン GFC 結果報告 08
RECORD PAGE 11
若林務さんインタビュー 15
シーバスフォトコンテスト 21



海のトローリング開放に係る【要望書】を提出しました

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会
会長 長鋪 毅一郎
トローリング開放委員会委員長 後藤 素彦

ジャパンゲームフィッシュ協会 (JGFA) は昨年12月下旬、日本釣振興会との連名にて、右ページに掲載した海のトローリング開放要望書を各都道府県の知事あてに提出いたしました。前回の要望書提出から、約12年が経過しております。

海のトローリングに関しては、現時点では沖縄県のみが全面開放であり、静岡県、長崎県、東京都、和歌山県、愛知県、茨城県はイベント開催を前提に地元漁協の同意のもと、所轄の漁業調整委員会の承認を得たものに関してのみ承認されているといった状況です。これら各都県の承認制は、JGFAが1999年および2010年にトローリング開放要望書を全国都道府県に送付した結果として改正されてきたものです。

言うまでもなく、JGFAの最終目標はイベントなどの短期間のみの承認ではなく「海のトローリングの全面開放」であり、それに向けてさらに運動を展開していかなければなりません。会員の皆さんにおかれましても、尚一層のご協力をお願い申し上げます。

JGFAとトローリング開放に関する年表 1978~2022年

年	月日	事 項
1978	10/	JGFA設立準備開始。
1979	7/21	「第1回東京トローリングフェスティバル(TTF)」三宅島で開催。18チーム(60名)
1980	7/10	トローリング開放要望書を水産庁に提出
	7/25-26	「第2回東京ビルフィッシュトーナメント(TBT)」(三宅島)25チーム(100名)。以降毎年開催。
1984	9/18	2回目の「トローリング開放要望書」を東京都、水産庁に提出
1985	7/4-7	TBTを名称変更し「第7回ジャパン・インターナショナル・ビルフィッシュ・トーナメント(JIBT)」。48チーム(145名)。以降毎年開催
1986	1/	「ポートオーナー連絡会(BOL)」をJGFA内に組織
1988	7/19	東京都水産課よりJGFAに東京都域内でのトローリング禁止通知
	7/20-23	第10回JIBTと「第10回アジアゲームフィッシングトーナメント(AGFT)」併催。59チーム(295名)
1990	7/25-28	「第12回JIBT」79チーム(333名)うち、海外から6チーム参加。JIBT史上初めてカジキへのタグ&リリースが行なわれた
1991	1/~/3/	3回目のトローリング開放要望書を提出((社)全釣協、(財)日釣振の名で各都道府県水産課に。)
	6/	水産庁がトローリング実態調査(各都道府県の水産課へ)
1992	5/11	「日本プレジャーボートフィッシング連盟」設立総会(東京アメリカンクラブ)
1993	7/21-24	「第15回JIBT」が悪天候で中止
1994	9/5	日本初の「カジキシンポジウム」(東大海洋研究所)にJGFAから大西英徳、石井宏尚、若林務の3名が講師として参加。トローリング規制見直しに言及
1999	12/24	4回目の「トローリング開放要望書」、各都道府県知事、漁業調整委員会あてに送付
2000	6/	土佐ビルフィッシュトーナメント、高知県から特別捕獲許可を得て開催
2001	6/	水産庁「水産基本法」制定。新たな視点で海面利用について法整備
2002	4/1	静岡県トローリング開放(委員会指示・条件付承認制)
	12/12	水産庁「海面における遊漁と漁業の調整について」の文書でトローリングに関する漁業調整規則見直しについて提案
2004	4/1	沖縄県トローリング全面開放
	8/20	長崎県トローリング開放(委員会指示・条件付承認制)
2005	1/6	JGFAがNPO法人として認証される
2006	7/12	東京都トローリング開放(委員会指示・条件付承認制)
	7/13~16	「第28回JIBT」(下田)113チーム(553名)参加チーム、人数とも過去最高
2008	7/19~22	「30周年記念JIBT」(下田)111チーム(574名)関係者含め総計750名。IGFA(フロリダ)よりロブ・クレイマー会長来日。
2010	5/27	5回目の「トローリング開放要望書」、(財)日釣振、(社)日釣工、(社)日舟工、JGFAの4団体連名で海なし県を除く38都道府県知事あてに送付
	11/25	再度、5/27付けで提出した「トローリング開放要望書」を38都道府県の水産課宛に送付。回答を依頼
2011	1/28	16の水産課等より回答を得られたが、トローリング規制見直しに応じるところはなし(主な理由:トローリングは広範囲に移動するので漁業者の操業に支障あり。資源減少をもたらす恐れがあり漁業者の生活を圧迫する。県内の遊漁者からトローリング規制見直しに関する具体的な要望がない。)
	7/22~24	「第33回JIBT」(下田)93チーム(436名)東日本大震災復興支援大会として開催
2015	7/17~20	「第37回JIBT」(下田)95チーム(457名)悪天候により安全を優先し、最終日1日だけの大会
	10/1	和歌山県トローリング開放(委員会指示・条件付承認制)
2020	7月	「第42回JIBT」コロナウイルス蔓延のため中止
2021	3/5	愛知県トローリング開放(委員会指示・条件付承認制)
	7月	「第43回JIBT」コロナウイルス蔓延のため中止
2022	6/1	茨城県トローリング開放(委員会指示・海域制限および条件付承認制)
	12/26	6回目の「トローリング開放要望書」、(財)日釣振、JGFAの2団体連名で海なし県を除く39都道府県知事あてに送付

2022年12月26日

各都道府県知事 様

公益財団法人 日本釣振興会
会長 高宮 俊諦

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会
会長 長舗 穀一郎

遊漁者の行うトローリング釣法に関する規制の見直しのお願い

上記につきまして早急な対処をしていただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

記

- (1) 平成13年(2001年)6月に制定された「水産基本法」に基づき、平成14年(2002年)12月12日の水産庁長官から都道府県知事あての「海面における遊漁と漁業について」(注1)のなかで、「ひき縄釣に係る規制措置の見直し(注2)」に言及していますが、その後20年経過してもその見直しにしたがう都道府県は少ない状況です。
- (2) 上記の水産庁長官の規制措置緩和提案に基づき、漁業調整委員会指示による承認(注3)、特別採捕許可(注4)を採用した事例は少ないものの、その実施効果は地域振興に大きく貢献しています。(注5)
まだ見直しされていない都道府県においてはそうした成功例を参考に規制緩和を検討してくださるようお願い申し上げます。(注6)
- (3) すでに承認制、特別採捕許可を採用されている都道府県におきましてはその効果をさらに広げるため、承認期間の拡充、承認手続きの簡素化などさらなる規制緩和をお願い申し上げます。
- (4) 前回提出した要望書(注7)にも表明いたしましたが、海外並みに正々堂々とトローリングができる日が来るまで今後もトローリングの全面開放を要望いたします。

【添付資料】

- (注1)(注2) 「海面における遊漁と漁業について」(平成14年12月12日付け)
(注3) 静岡県の「ひき縄釣」に関する漁業調整規則および委員会指示内容。同様に東京都、長崎県、和歌山県も承認制を実施。
沖縄県は全面的にひき縄釣禁止条項を漁業調整規則より削除済み。
(注4) 茨城県のひき縄釣に関する「特別採捕許可」
(注5) 静岡県下田市で開催されている「国際カジキ釣り大会」レポート
(注6) 「スポーツフィッシングと地域振興」(BOL北日本 & くろしおFC / 宮城県)
(注7) 前回、2010年12月24日付けで提出した本件に関する「要望書」

※この件に関するお問合せ等は、NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会事務局あてにお願い申し上げます。

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館4階

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会

TEL:03-6280-3950 FAX:03-6280-3952 Eメール:japan@jgfa.or.jp

11/20(日)【JGFA沖釣りサーキット2022第4戦カワハギ大会】

【大会要項】

- 開催日:2022年11月20日(日)
- 受付開始6:30、出船7:20、沖上がり13:00
- 場 所:神奈川県小網代「丸十九」
- 審 査:18cm以上のカワハギ3尾までの総重量
- ルール:IGFAオールタックルルールに準ずる(ハリ数は2本まで)
- その他:バッゲリミットは18cm以上、20尾まで
- 参加人数:14人

沖釣りもIGFAルールで」という故服部善郎名人(JGFA名誉会員)の呼びかけで始まったJGFA沖釣りサーキット。第4戦カワハギ大会が神奈川県小網代・丸十九で開催され、14人が参加しました。この大会では、資源保全のためにバッゲリミットを採用、釣れすぎた分や小型はすべてリリースしています。

【当日の概況】

天気予報は北東風が強く曇り、昼過ぎから雨ということでしたが風は強かったものの、雨にも降られず、アタリは十分取れる状況でした。釣り場は小網代港沖の水深15~20mの根回りを攻めます。アタリはあるのですがなかなかハリガカリさせることが難しいこの釣り独特の状況で、なかなか釣果に結びつきません。

その中で左舷ミヨシから3番目の杉本晋之介さんがものの1時間ほどで検量サイズを3尾そろえ、絶好調!一方、右舷大ドモの古宮正勝さんも検量サイズのカワハギをゲットしていました。しかし、全体では釣れるカワハギは少なく、そのたびに船長は潮周りを繰り返し、なんとか釣らせようと頑張ってくれました。

この結果、一番釣った人で9尾程度。規定の3尾そろえて検量に持ち込んだのは14人中3人でした。帰港後は早速、検量。この結果、9尾を釣り、良型を3尾そろえた古宮正勝さんが総重量698gで優勝となりました。2位は3尾の総重量682gだった杉本晋之介さん、3位は3尾の総重量591gで浅野法子さんでした。浅野法子さんは、前回10/23のヒラメ大会で優勝しており、2戦連続で上位入賞を果たしました。すばらしいですね!

検量後は丸十九さんのテラスをお借りしてなごやかな表彰パーティー。釣果は厳しかったですが、和気あいあいと楽しめた大会は、無事終了となりました。

12/11(日)【JGFA沖釣りサーキット2022・第5戦アマダイ大会】

【大会要項】

- 開催日:2022年12月11日(日) 出船7:00 沖上がり14:00
- 場 所:神奈川県葉山あぶずり港・たいぞう丸
- 審 査:25cm以上のアマダイ3尾以内の総重量。
- ルール:IGFAルールに準ずる
(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本まで)
- その他:バッゲリミットは25cm以上、7尾まで
- 参加人数:23人(うち、取材1名含む・女性3人)。
2隻出し:21号船 17人、23号船 6人(乗合客と同乗)

コロナウイルスのため、3年ぶりの開催でした。今回もIGFAルールにのっとり、電動リールは使えませんので大会参加者は全員手巻き。「釣り」は「漁」ではないとの姿勢から、スポーツマンシップにのっとり釣り人同士、また魚に対してもフェアに釣りすることが大前提とされていることによります。またえさ釣りの場合、多獲を避けるようにハリ数は2本までと定められています。

【当日の概況】

7:00定刻に、まずまずの天気で出船。江ノ島沖の水深60~70m前後でスタート。開始から41cm、42cmといよいサイズのアカアマダイがヒット。その後は40cm以下のサイズが中心でしたが、潮回りするごとにぼつぼつと釣れました。10:00過ぎからは北寄りの風が強まってきたが、大型船のため流されず十分にアタリも取れました。ただ、この水深では、50cmオーバーの特大が出ませんでしたので、船長は残り1時間は大型の期待できる葉山沖の水深126mからカケ上がる110m前後に移動を決意。

ここに着いてすぐ、右舷ミヨシから3番目の浅野法子さんに大物がヒット! 浮かび上がったアカアマダイは優に50cmを超えて、歓声が上がりました。船長の狙いかびったりとはまったく瞬間でした。船上計量の結果、全長52cm。すばらしいサイズでした。みなさん、私も続けとばかり大物を期待しましたが、それ以上のサイズは出ず、14:00mストップフィッシングとなりました。

帰港後はただちに検量し、表彰式に移りました。その結果、前述の52cm(1.20kg)を含め、3尾の総重量2.05kgで浅野法子さんが第3戦ヒラメ大会に続き優勝しました。なお、検量対象の25cm以上のアマダイを釣ったのは、選手22人中17人でした。

【優勝した古宮正勝さんのコメント】

スタートは底狙いでいた。いろいろ釣り方を試しましたが、結果、小型と外道のキタマクラしか釣れません。そこで底から1~3mの宙層狙いに作戦変更です。誘いを加え、聞きあわせをすると、ガツンと良型がヒット! 24cmほどのキモパン良型を3尾揃えることができました。

ここからはサイズアップ狙いです。そして今日一番の大きなあたりがあり、大型がヒットしました…が、途中でバレました。しかも2度も。気持ちを取り直してトライ! 3度目の大型がヒットし、心の中で丁寧に! 丁寧に! と唱えながら、上層まで来たところでまたもやバラン! 自動ハリス止めからハリスが抜けっていました。「逃した魚は大きい」と痛感しましたが、何より一日楽しい釣りができたことがうれしかったです。

【大会成績】

(審査は3尾以内の重量、単位g)

1位 古宮正勝(マーメイドAC)	698
2位 杉本晋之介(HOOKERS FC)	682
3位 浅野法子(ファミリー会員)	591
4位 下留憲政(サポート会員)	588
5位 笹尾莊吾(HOOKERS FC) (敬称略)	521



2019年大会ではお嬢さんが優勝。今回はご自身が優勝と古宮家がカワハギ大会2連覇を達成!
古宮正勝さん



当時は北東風が強く釣りやすくなかったものの、皆さん頑張りました



久しぶりの参加で2位に入った杉本晋之介さん。開始早々3尾そろえて682gでした



3位に入った浅野法子さん(右)。ご主人の浅野俊吾さんは検量対象1尾で8位

【優勝した浅野法子さんのコメント】

12時を過ぎても、バケツの中には検量対象魚は0匹。もう何をしたら良いか全くわからなくなってしまった、1m棚切り後横を向いてボーッとしていたら、押さえ込むアタリがあり、やっと釣れました。まもなく��けてもう1匹追加。ここで深場に移動。2投目、1m棚切り直後にクンと小さな当たりがあり、合わせて巻き上げてきましたが、全く引きません。でもすごく重い。おマツリかな、何だろう、この重さは…。仕掛けが真っ直ぐに上がってきて、海面に大きな魚体がポツカリ浮かび上がりました! 1日厳しい状況でしたので、検量対象となる3匹目が釣れてとても嬉しかったです。

【大会成績】

(審査は3尾以内の総重量、単位kg そのあとカッコ内は検量尾数)

1位 浅野法子(ファミリー会員)	2.05(3)
2位 達正 明(マーメイドAC)	1.35(3)
3位 下留憲政(サポート会員)	1.30(3)
4位 平澤貞三(サポート会員)	1.20(3)
5位 菊池信二(サポート会員) (敬称略)	1.15(3)



この良型を含めて3尾合計1.35kgで2位に入った達正明さん



上位入賞ならずとも、よいサイズを釣った皆さん



最大52cm・1.20kgを含めて3尾合計2.05kgで、ヒラメ大会に続いて優勝した浅野法子さん

第38回 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル

【大会要項】

- 開催日:2022年11月13日(日)
- 会 場:横浜・新山下 RE:JOURNAL(釣り場は、東京湾一帯)
- 主 催:東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル実行委員会
- 後 援:JGFA
- ルール:IGFAルールに立脚するオールタグ&リリース。
バープレスフック採用
- 参加チーム:14チーム53名 うち1チーム3名キャンセル

【大会結果】

- 5 尾の叉長合計で争うチーム賞は……
321ポイントをマークした EDOBAKU
- フルタグ賞(25本のタグを打ち切ったチーム)……
アランビック FC
- 横ビル(B)+アップバーズ(B)
レッドヘッダーズ(B)
- 60 歳以上のシニア大物賞 1 位 は……
Blue Water 小川 雄二さん 叉長 64.0cm
- レディース大物賞1位は……
横ビル(A) 佐々木 愛さん 叉長 71.0cm

コロナウイルス感染拡大に伴い、2年間見合わせていましたが、3年ぶりに当フェスティバルを開催いたしました。装いを新たにオープンした、横浜・新山下のRE:JOURNALさんをお借りして、13チーム総勢50名の

シーバスアングラーが集合。久々にお互い顔を合わせ、シーバスに遊んでもらい充実した一日を過ごしました!

このフェスティバルの最大の特徴はオールタグ&リリースシステムですが、シーバスの叉長を計測するためのスケールが、当フェスティバルを後援するJGFAより各チームへ配布されました。釣れた魚は叉長を計測して素早くタグを打ち、リリースします。いつかまた再会できることを願い、今回は 119尾のシーバスが T&R されました。

改装オープンされた RE:JOURNALさんの表彰パーティーはコロナ感染対策も万全で、短い時間ではありましたが、選手の皆さんは高級感溢れる店内で、おいしい食事と共に歓談を楽しんでいらっしゃいました。

38年間、当フェスティバルを事故もなく継続できているのは、多くの参加されている皆様・企業様のご理解とご支援の賜物であり、キヤブテン並びに参加選手ひとりひとりの非常にレベルの高いスキルのおかげです。心から感謝いたします。

近年シーバスゲームは日本各地で確立され、また釣具の発展やアングラーの新しい発想により、各地で様々なスタイルやパターンが生まれてきました。日本の代表的な釣りの1つとして世界に誇れるゲームフィッシングといつても過言ではないかと思われます。このフェスティバルでは、タグ&リリースやキャッチ&リリース、バープレスフックの採用などを以前から訴えてまいりました。これからも初心を忘れず、更なるシーバスフィッシングの発展を願い、東京湾のスズキの資源を末永く維持して、素晴らしい釣りをいつまでも続けていけるよう努力し、また釣りや海上でのマナーを次世代に伝えていきたいと思いますので、ご支援・ご協力並びにご参加のほどをよろしくお願い申し上げます。



選手はシーバスガイド船(遊漁船)やオーナーボートに乗り参加。スタートフィッシングは、本部船のコールとともに!



将来を担うジュニアアングラー、市原 航さんは叉長
58.0cmでジュニア大物賞



豪華トロフィー群をはじめ、賞品も盛りだくさんでした。ご協賛いただいた各社・皆様、ありがとうございます



レジェンド古山輝男さんの音頭で、乾杯＆パーティースタート！

第22回 JGFA新春パーティーが開かれました

本年の新春パーティーは、2023年1月28日(土)の18:00からJR大塚駅前「ホテルベルクラシック東京」で開催されました。

当日は日本各地より100名のアングラーにお集まりいただきました。JGFA長鋪会長の開会あいさつに続き、東京都知事・小池百合子様よりお祝いのメッセージを頂き、来賓代表として(公益財団法人)日本釣振興会専務理事・下山秀雄様よりお言葉を頂戴いたしました。そして、いよいよ乾杯となり、和やかな歓談タイム。

初めての人も、お一人で参加の人も、そこは皆釣り仲間！ すぐ

に打ち解けて会話が弾みます。旧交を温めるよい機会となつたばかりでなく、新しい出会いも数多く生まれたようです。やっぱり同じ趣味を持つ仲間っていいですよね。

その後はJGFAアンバサダーの紹介、IGFAグレートマーリンレース感謝状贈呈、昨年のタグ&リリース活動の功労者、日本記録達成者、沖釣りサーキット入賞者の表彰が行なわれました。皆さんいい笑顔ですね！ お楽しみの福引抽選会も大いに盛り上がり、2時間がとても早く感じられたパーティーでした。

横浜＆大阪のフィッシングショーでJGFAブース大盛況

ジャパンゲームフィッシュ協会は、ルールある釣りの価値、仲間を持つことの楽しさ、そして資源保全の大切さをお伝えするため、例年通りフィッシングショーに出展いたしました。今回はバッグリミット・アンケートを実施し、釣魚持ち帰り自主規制に関する皆様の意識把握と普及活動を行いました。イベントとして目玉となったのは、精密な計測器を使用したノットコンテスト。先着30名様の方々が8kgラインをスイベルに結び、自分の

結び目(ノット)がどれくらいの強度を示すのか真剣勝負です。ほぼラインの表示強度を達成するノットも出て、どよめきと落胆が入り混じっていました。また、ノットコンテストとは別に随時行ったノット強度チェック体験も大人気でした。ご参加いただいた皆様、JGFAブースにお越しいただいた皆様ありがとうございました。



★ノットコンテストの概要

- ・参加定員:先着30名
- ・実施方法:スイベルに8kgライン(ナイロン)を結んでテスターで強度計測
- ・表彰:上位1～3位までに表彰状贈呈
- ・参加賞:全員に「JGFAオリジナルメジャー(巻尺・非売品)」をプレゼント

国際カジキ釣り大会のHP立ち上げ

国際カジキ釣り大会 (JIBT) 実行委員会では、より多くの皆様にJIBTの歴史や大会の意義をご理解いただくため、ホームページを開設いたしました。JIBTの歴史をはじめ、第1回から44回大会までのリザルト、写真、動画を公開しています。過去のビルフィッシャーの奮闘や、JIBTに毎年参加いただいたレジェンドの活躍も視聴することができます。釣りの参考になる場面も随所にありますので、是非ご覧ください。各種サーチエンジンで「JIBT」で検索するとヒットします。

<https://jibt.jp/>

また 2023年第45回大会より、ホームページからのデジタルエントリーも開始する予定です。要綱が整い次第ご連絡いたします。



オールジャパン・ゲームフィッシングコンテスト2023

ALL JAPAN GAME FISHING CONTEST

最終結果発表！



男性部門・海水
イソマグロ46.10kg 増田 大輔さん



男性部門・海水
オオクチイシチビキ8.20kg 森山 祐樹さん



男性部門・海水
キチヌ1.70kg 矢田 圭さん



男性部門・海水
サンコウメヌケ4.80kg 西野 勇馬さん

各魚種、1位のみを掲載しました。

《男性部門・海水》

申請No.	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
66	男性	アイゴ	0.97	坂本 幸博	鹿児島県種子島浅川漁港	2022/5/9	24	
67	男性	アオスジモンガラ	0.80	坂本 幸博	沖縄県渡名喜島沖水深80m	2022/5/22	24	はなぶさ
124	男性	アオハタ	0.85	浅野 俊吾	大分県別府市沖	2022/10/27	24	第3べっぴ丸
5	男性	アカエソ	0.50	山岡 一信	徳島県県海部郡海陽町	2022/1/18	6	ORENO KaYaK
115	男性	アザハタ	1.00	浅野 俊吾	沖縄県石垣島空港沖	2022/10/2	24	千夏エイト
148	男性	アカムツ	0.63	西野 勇馬	神奈川県相模湾葉山沖	2022/12/26	24	サン・リリー
134	男性	イソマグロ	46.10	増田 大輔	東京都小笠原母島二本岩	2022/11/19	15	真漁丸
130	男性	イトヨリダイ	1.05	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/10/20	10	サン・リリー
64	男性	イバラヒギ	4.60	西野 勇馬	神奈川県真鶴沖	2022/5/22	24	サン・リリー
25	男性	ウスバハギ	1.61	坂本 幸博	鹿児島県屋久島永田堤防	2022/3/12	15	
68	男性	ウメイロ	0.76	坂本 幸博	沖縄県渡名喜島沖水深120m	2022/5/22	24	はなぶさ
94	男性	エドアブラザメ	4.10	西野 勇馬	神奈川県辻堂沖	2022/7/14	24	サン・リリー
137	男性	オウムブダイ	0.64	坂本 幸博	東京都八丈島抜舟の場	2022/11/3	24	
118	男性	オオクチイシチビキ	8.20	森山 祐樹	東京都小笠原母島メガネ岩沖	2022/10/5	37	チヂワ
139	男性	オオモンハグブダイ	0.75	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/11/22	24	
105	男性	オキエソ	0.75	西野 勇馬	神奈川県小網代沖	2022/9/4	15	15号丸十九丸
138	男性	オグロブダイ	0.46	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/11/21	24	
140	男性	オスジクロハギ	0.55	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/11/22	24	
45	男性	オニヒゲ	0.95	西野 勇馬	神奈川県真鶴沖	2022/4/21	24	サン・リリー
136	男性	カマスサワラ	20.57	増田 大輔	東京都小笠原母島サクラ根	2022/11/18	15	真漁丸
76	男性	カメレオンブダイ	0.70	坂本 幸博	鹿児島県屋久島永田堤防	2022/6/12	24	
102	男性	カンムリベラ	1.19	坂本 幸博	東京都八丈島抜舟の場	2022/8/20	24	
6	男性	カンランハギ	1.02	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/1/7	24	
93	男性	ギス	0.90	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/7/9	24	サン・リリー
95	男性	キチヌ	1.70	矢田 圭	大阪湾南港	2022/6/9	8	第一タビヨタ丸
49	男性	キビレブダイ	0.58	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/4/23	24	
34	男性	クログチ	1.16	浅野 俊吾	大分県臼杵市沖水深200m	2022/4/10	24	倫明丸(みちあきまる)
65	男性	クログチイワシ	1.15	西野 勇馬	神奈川県真鶴沖	2022/5/29	24	サン・リリー
80	男性	クロシビカマス	0.80	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/6/15	24	サン・リリー
132	男性	クロダイ	0.60	木下 建作	長崎県川棚港	2022/11/20	10	
81	男性	ゴマサバ	0.48	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/6/15	24	サン・リリー
84	男性	サガミザメ	2.80	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/6/19	24	サン・リリー
7	男性	サザナミヤッコ	1.02	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/1/7	24	
57	男性	サンコウメヌケ	4.80	西野 勇馬	神奈川県真鶴沖	2022/5/11	24	FAST 23
73	男性	シマフグ	0.82	田村 紘一	島根県浜田市瀬戸ヶ島沖	2012/6/18	1	田村丸
129	男性	シロアマダイ	3.00	秋本 幸伸	静岡県焼津沖	2022/11/17	15	興栄丸
116	男性	シロダイ	1.60	浅野 俊吾	沖縄県石垣島空港沖	2022/10/2	24	千夏エイト

ALL JAPAN GAME FISHING CONTEST

最終結果発表!

男性部門・海水
ワニエソ1.56kg 山岡 一信さん男性部門・海水
スジアラ・2.35kg 浅野 俊吾さん男性部門・海水
ニセゴイシツボ15.6kg
坂本 幸博さん男性部門・淡水
ビワマサ4.90kg 奥井 敦史さん女性部門・海水
ハマダイ・1.00kg 浅野 法子さん

各魚種、1位のみを掲載しました。

申請№	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
2	男性	シロブチハタ	0.87	浅野 俊吾	沖縄県石垣島川平湾沖	2022/1/1	10	石垣島・長内丸
4	男性	スジアラ	2.35	浅野 俊吾	沖縄県石垣島川平湾沖	2022/1/4	10	石垣島・長内丸
135	男性	スズキ	5.93	奥山 尚樹	神奈川県横浜沖	2022/11/26	24	シーコロ
77	男性	ソウシハギ	2.28	坂本 幸博	鹿児島県屋久島一湊元浦港	2022/6/19	24	
146	男性	ダイナンアナゴ	5.70	西野 勇馬	神奈川県横須賀市うみかぜ公園	2022/11/27	60	
41	男性	タロウザメ	15.30	西野 勇馬	神奈川県佐島沖	2022/4/17	24	サン・リリー
120	男性	ツキンノワダイ	0.68	坂本 幸博	鹿児島県屋久島矢筈の磯	2022/10/10	24	
87	男性	ツマリテングハギ	0.57	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/7/8	24	
23	男性	トウジン	0.90	西野 勇馬	神奈川県江ノ島沖	2022/3/10	24	FAST 23
16	男性	ナガブダイ	0.72	坂本 幸博	鹿児島県屋久島吉田堤防	2022/2/26	15	
121	男性	ニシキブダイ	0.63	坂本 幸博	鹿児島県屋久島元浦港	2022/10/11	24	
28	男性	ニセカンランハギ	1.14	坂本 幸博	鹿児島県屋久島永田堤防	2022/3/20	15	
26	男性	ニセゴイシツボ	15.60	坂本 幸博	鹿児島県屋久島吉田堤防	2022/3/13	60	
90	男性	ハナアイゴ	0.70	坂本 幸博	鹿児島県沖永良部島フーチャ	2022/7/10	24	
149	男性	パラムツ	4.25	西野 勇馬	神奈川県相模湾真鶴沖	2022/12/17	24	サン・リリー
71	男性	ヒキマユメイチ	1.37	平木 大士	鹿児島県小宝島城之前漁港	2022/5/30	8	
13	男性	ヒラスキ	4.60	中村 幸平	和歌山県串本町	2022/2/5	24	
141	男性	ブチブダイ	0.90	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/11/22	24	
46	男性	ブリ	4.30	平松 雅直	大分県大分市佐賀関沖	2022/1/15	15	新成丸
83	男性	ヘラツノザメ	2.60	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/6/19	24	サン・リリー
103	男性	ホウライヒメジ	0.66	坂本 幸博	東京都八丈島抜舟の場	2022/8/20	24	
10	男性	ボラ	2.75	西野 敬	神奈川県相模川河口	2022/1/4	6	
53	男性	マガレイ	1.83	土屋 秀敏	北海道室蘭沖防波堤(北)	2022/4/29	8	
48	男性	マゴチ	0.90	平松 雅直	大分県佐伯市大入島沖	2022/3/5	8	レンタルポート大分
63	男性	マサバ	0.59	西野 勇馬	神奈川県葉山沖	2022/5/19	24	サン・リリー
114	男性	マルクチヒメジ	0.90	浅野 俊吾	沖縄県石垣島空港沖	2022/10/2	24	千夏エイト
85	男性	ムネダラ	3.95	西野 勇馬	神奈川県真鶴沖	2022/6/23	24	サン・リリー
18	男性	メジナ	1.58	長岡 寛	東京都神津島ナバタケ	2022/3/8	10	
43	男性	モミジザメ	12.70	西野 勇馬	神奈川県佐島沖	2022/4/17	24	サン・リリー
128	男性	モンガラカワハギ	0.75	浅野 俊吾	鹿児島県徳之島天城町沖	2022/11/09	24	知加丸
89	男性	ヤシャベラ	0.47	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島古仁屋港	2022/7/8	24	
101	男性	ヤマブキベラ	0.47	坂本 幸博	東京都八丈島抜舟の場	2022/8/20	24	
24	男性	ユメザメ	11.20	西野 勇馬	神奈川県江ノ島沖	2022/3/10	24	FAST 23
142	男性	ヨコエダイ	2.60	坂本 幸博	鹿児島県奄美大島大島海峡白浜前	2022/11/22	24	minami
14	男性	ワニエソ	1.56	山岡 一信	三重県北牟婁郡紀北町	2022/2/7	24	レンタルポート
106	男性	ワニゴチ	0.90	西野 勇馬	神奈川県小網代沖	2022/9/4	15	15号丸十九



女性部門・海水
マカジキ94.20kg 赤井澤 美香さん



女性部門・淡水
ニジマス1.18kg 中村 晴さん



ジュニア部門・海水
カツオ4.43kg 三好 健斗さん



ジュニア部門・海水
マフグ1.68kg 渡邊 晃来さん

《男性部門・淡水》								
申請No.	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
54	男性	アマゴ(サツキマス)	1.95	多谷本 大輔	広島県広島市太田川	2022/5/15	6	
17	男性	オオクチユゴイ	1.40	永間 智明	沖縄県宮古島崎田川上流	2022/3/3	8	
78	男性	カムルチー	5.90	斎藤 悅朗	佐賀県佐賀クリーク	2022/6/30	8	
109	男性	カラフトマス	1.35	前田 穂	北海道羅臼町	2022/9/3	10	
91	男性	ソウギョ	20.15	奥山 文弥	埼玉県元荒川	2022/7/28	4	
32	男性	ニジマス	4.30	奥山 文弥	神奈川県芦之湖	2022/4/2	1	レンタルポート
74	男性	ニホンウナギ	0.64	西野 勇馬	神奈川県平作川水系	2022/6/5	15	
82	男性	ハクレン	10.80	村田 倭	茨城県常陸利根川	2022/7/3	15	
104	男性	ビワマス	4.90	奥井 敦史	滋賀県琵琶湖	2022/9/8	8	奥井総建丸
39	男性	ブラウントラウト	4.13	奥山 文弥	神奈川県芦之湖	2022/4/1	2	
52	男性	ヤマメ(サクラマス)	2.05	吉富 健志	秋田県米代川	2022/5/3	6	
111	男性	マダラロリカリア	0.80	坂本 幸博	沖縄県比謝川	2022/9/10	6	

《女性部門・海水》								
申請No.	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
112	女性	オジロバラハタ	0.85	浅野 法子	沖縄県石垣島空港沖	2022/10/2	24	千夏エイト
86	女性	オカカジカ	0.65	浅野 法子	北海道日高沖	2022/6/22	24	第8静漁丸
123	女性	シロアマダイ	1.10	浅野 法子	大分県別府市沖	2022/10/27	24	第3べっぷ丸
126	女性	スズキ	4.22	酒川 郁子	東京湾羽田沖	2022/10/14	8	一番星
117	女性	ハマダイ	1.00	浅野 法子	沖縄県黒島南沖	2022/10/4	24	千夏エイト
3	女性	ホオアカクチビ	0.88	浅野 法子	沖縄県石垣島川平湾沖	2022/1/1	10	石垣島・長内丸
110	女性	マカジキ	94.20	赤井澤 美香	宮城県金華山沖	2022/9/3	24	TAMIBOU V
133	女性	ヒラメ	3.65	浅野 法子	千葉県飯岡沖	2022/10/23	24	第18隆正丸
30	女性	マゴチ	1.05	中井 遥子	千葉県富津市第一海堡沖	2022/3/31	8	OLIVE
113	女性	メガネハギ	0.90	浅野 法子	沖縄県石垣島空港沖	2022/10/2	24	千夏エイト

《女性部門・淡水》								
申請No.	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
72	女性	アマゴ(サツキマス)	0.90	中井 遥子	山梨県桂川	2022/6/9	3	
108	女性	アメリカナマズ	5.70	中平 明美	茨城県北利根川	2022/9/26	10	
107	女性	ソウギョ	12.62	奥山 幸代	埼玉県元荒川	2022/9/22	8	
36	女性	ニジマス	1.18	中村 晴	山梨県本栖湖	2022/3/16	4	
40	女性	ブラウントラウト	3.08	奥山 幸代	神奈川県芦之湖	2022/4/22	2	

《ジュニア部門・海水》								
申請No.	部門	魚種名	魚体重(kg)	氏名	釣場	釣った日	ラインクラス(kg)	ポート名
35	ジュニア	ウツカリカサゴ	0.47	渡邊 晃来(9才)	京都府伊根町沖	2022/4/5	15	Fish Hunter
59	ジュニア	カツオ	4.43	三好 健斗(7才)	東京都新島黒根沖	2022/5/29	10	英丸2
96	ジュニア	カンパチ	2.54	三好 健斗(7才)	東京都新島黒根沖	2022/8/7	15	誠恵丸
97	ジュニア	キハダ	18.30	三好 健斗(7才)	東京都新島黒根沖	2022/8/7	15	誠恵丸
60	ジュニア	マダイ	4.43	渡邊 晃来(9才)	京都府伊根町沖	2022/5/28	10	Fish Hunter
61	ジュニア	マフグ	1.68	渡邊 晃来(9才)	京都府伊根町沖	2022/5/28	10	Fish Hunter

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンゲス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンゲス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。
※コチババスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、
持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。
※タイリクズスキに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためですので、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●M-24kg(50lb)クラス ●5.93kg ●神奈川県横浜沖 ●2022/11/26 ●奥山 尚樹 ●フィッシュ&フィンズ ●シークロ

CR



奥山 尚樹
<スズキ 5.93kg>

夜釣りのスズキ狙いは初めてでした。記録は全く意識していなかったが、過去最高は高一の時に遊漁船で釣った79cmだったので、80cmオーバーが来ればと思ったら、もっと大きいのが釣れました。記録になって嬉しさと驚きがありました!「8割の運と2割の実力」そして父と岡本船長に感謝です



SHORE <岸(磯)からの釣り>

<カマスサワラ> WAHOO / *Acanthocybium solandri*

●M-15kg(30lb)クラス ●20.57kg ●東京都小笠原母島サワラ根 ●2022/11/18 ●増田 大輔 ●個人会員 ●真漁丸



増田 大輔
<カマスサワラ 20.57kg>

船着場からルアーをキャストするも反応がないのでポイント移動後直ぐにヒット。潮が引いており一段下のテラスに降りられ、取り込みも楽にできました



FRESHWATER <淡水の釣り>

<ニジマス> TROUT, rainbow / *Oncorhynchus mykiss*

●M-6kg(12lb)クラス ●2.50kg ●山梨県本栖湖 ●2023/1/2 ●奥山 勇樹 ●フィッシュ&フィンズ

<ブラウントラウト> TROUT, brown / *Salmo trutta*

●W-4kg(8lb)クラス ●1.40kg ●栃木県中禅寺湖 ●2022/9/19 ●中村 潤 ●フィッシュ&フィンズ ●OKAJIN

W CR



奥山 勇樹
<ニジマス2.50kg>

富士山を目の前に、ステイールヘッドのようなニジマスが浮上した瞬間、言葉に表すことができない感動をしたのを鮮明に覚えています。今後はマスだけでなく、ソルトやフライでも日本記録をキャッチし、JGFAの認知拡大に貢献することができるよう精進して参ります



中村 潤
<ブラウントラウト1.40kg>

自分と同じ名前のルアー(ナギサ)でつれたので、うれしいです

FRESHWATER FLY FISHING <淡水のフライフィッシング>

<カムルチー> SNAKEHEAD / *Channa argus*

●M-8kg(16lb)クラス ●5.90kg ●佐賀県佐賀クリーク ●2022/6/30 ●斎藤 悅朗 ●鉄心俱楽部

WR CR

<ソウギョ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●M-4kg(8lb)クラス ●20.15kg ●埼玉県元荒川 ●2022/7/28 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ

WR CR



WR
CR



WR
CR

奥山 文弥
<ソウギョ> 20.15kg
こんな近くの川で世界記録級の魚が釣れるなんて、棚からぼた餅でした

斎藤 悅朗
<カムルチー 5.90kg>
気温38℃の中、良く食ってくれたと感謝しています

ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<オウムブダイ> PARROTFLISH, common / *Scarus psittacus*

●オールタックル ●0.64kg ●東京都八丈島抜舟の場 ●2022/11/13 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<オオグチイシチビキ> JOBFISH, rusty / *Aphareus rutilans*

●オールタックル ●8.20kg ●東京都小笠原母島メガネ岩沖 ●2022/10/5 ●森山 祐樹 ●レギュラー会員 ●チヂワ

<オオモンハゲブダイ> PARROTFLISH, bower's / *Chlorurus bowersi*

●オールタックル ●0.75kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2022/11/22 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<オグロブダイ> PARROTFLISH, darktail / *Scarus fuscocaudalis*

●オールタックル ●0.46kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2022/11/21 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

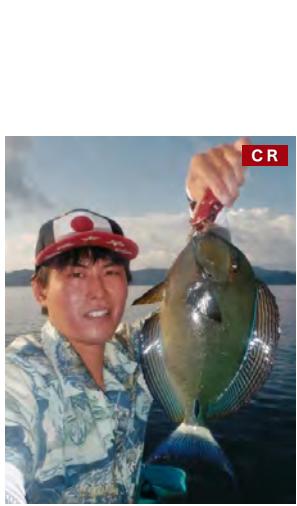
<オスジクロハギ> SURGEONFISH, ringtail / *Acanthurus blochii*

●オールタックル ●0.55kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2022/11/22 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<シロアマダイ> HORSEHEAD, white / *Branchiostegus albus*

●オールタックル ●3.00kg ●静岡県焼津沖 ●2022/11/17 ●秋本 幸伸 ●個人会員 ●興栄丸



森山 祐樹 <オオグチイシチビキ 8.20kg>
ムロアジの泳がせでの釣果でした

坂本 幸博
<オオモンハゲブダイ 0.75kg>
奄美釣行初日から寄せ餌に反応して姿を現していた魚。絶対バラすまいと丁寧に竿を操作して、無事キャッチに成功

坂本 幸博
<オスジクロハギ 0.55kg>
泳いでいるのが見えていたのでそのうちと思っていたら、やはり釣られててくれました

秋本 幸伸
<シロアマダイ 3.00kg>

アタリは小さく、違和感程度。合わせ处を見極めて大きく竿を立てる、重量感はたっぷりで大暴れ。何度もドラグを出した後にようやく上がってきた魚体を見てこれまでの苦労が吹き飛びました

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レングス記録 FAL =オールタックル・フライ・レングス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

<ツキノワブダイ> PARROT FISH, festive / *Scarus festivus*

●オールタックル ●0.68kg ●鹿児島県屋久島矢筈の磯 ●2022/10/10 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<ニシキブダイ> PARROT FISH, Singapore / *Scarus prasiognathos*

●オールタックル ●0.63kg ●鹿児島県屋久島元浦港 ●2022/10/11 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<ブチブダイ> PARROT FISH, dusky / *Scarus niger*

●オールタックル ●0.90kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2022/11/22 ●坂本 幸博 ●終身会員

WR CR

<メガネハギ> TRIGGERFISH, masked / *Sufflamen fraenatum*

●オールタックル ●0.90kg(タイ記録) ●沖縄県石垣島空港沖 ●2022/10/02 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●千夏エイト

W

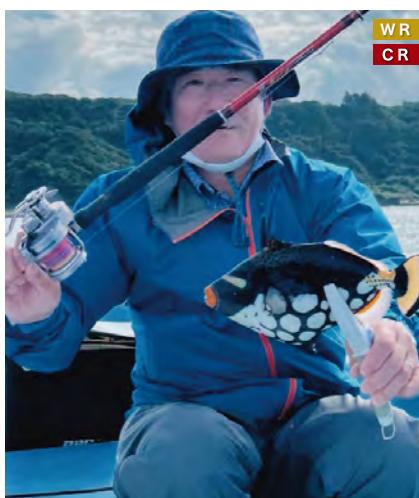
<モンガラカワハギ> TRIGGERFISH, clown / *Balistoides conspicillum*

●オールタックル ●0.75kg ●鹿児島県徳之島天城町沖 ●2022/11/09 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●知加丸

WR CR



WR
CR



WR
CR

坂本 幸博

<ニシキブダイ> 0.63kg

なかなか浮いてこない魚でしたが、ハリスは3号なので強引は禁物。切れず、潜り込まれずのギリギリの攻防が面白い。初めて見るブダイだったので、タモを使用して慎重にキャッチ

浅野 俊吾

<モンガラカワハギ> 0.75kg

大型の本カワハギに似た強い引きを楽しめました

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レングスレコード>

<ヒラスズキ> SEABASS, blackfin / *Lateolabrax latus*

●レングスレコード ●79(叉長) ●静岡県御前崎市池新田新野川河口 ●2022/12/11 ●服部 真司 ●レギュラー会員

AL TR



AL
TR

服部 真司

<ヒラスズキ> 79cm(叉長)

夕方、河口が絡んだサーフで釣りをしていると大量のハクやイナッコを確認。一度休憩のため浜から上がり、暗くなってから再び同じ場所へ入りました。岸近くにできたサランの下にミノーを通すとヒット! 銀白色の大きな魚体に驚きました!



10LB SEABASS CLUB <10ポンド シーバスクラブ>

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●10g(20lb)クラス ●4.50kg ●千葉県木更津市金田見立海岸 ●2022/11/27 ●永井 光一 ●個人会員

CR

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●10g(20lb)クラス ●5.87kg ●千葉県木更津市金田見立海岸 ●2022/12/10 ●永井 光一 ●個人会員

CR

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●24g(50lb)クラス ●5.93kg ●神奈川県横浜沖 ●2022/11/26 ●奥山 尚樹 ●フィッシュ&フィンズ ●シークロ

CR

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●15g(30lb)クラス ●4.70kg ●神奈川県横浜市横浜港 ●2022/11/30 ●中井 遥子 ●個人会員 ●シークロ

TR

<スズキ> SEABASS, Japanese(suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●15g(30lb)クラス ●5.35kg ●神奈川県横浜市横浜港 ●2022/11/30 ●中井 遥子 ●個人会員 ●シークロ

TR



CR



TR

永井 光一

<スズキ 5.87kg>

小型のシンペんで海草の掛からない場所を探し、大型のミノーに替えた3投目にヒット！始めから大型の手応えを感じ慎重にやり取りし、残り5mの所でライトをつけランカーと確信。最後まで油断せず無事にキャッチできました

中井 遥子

<スズキ 5.35kg>

水中でもエラあらいをするので、バしないように緊張しました。太い魚体をみておどろきました

METER OVER CLUB <メーターオーバークラブ>

<コイ> CARP, common / *Cyprinus carpio*

●6kg(12lb)クラス ●103cm(全長) ●茨城県涸沼 ●2022/9/29 ●若菜 懿彦 ●SPLASH

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●6kg(12lb)クラス ●118cm(全長) ●埼玉県元荒川 ●2022/10/20 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ

CR



CR



CR

若菜 懇彦

<コイ 103cm>

ルアーでボトムをねらっていたらアタリがあった。なかなか寄ってこなかったが、なんとかキャッチ&リリースしました

奥山 文弥

<ソウギョ 118cm>

淡水フライではサーモンやスティールヘッドが最高のゲームだと思っていましたが、灯台下暗し。カナダやアラスカまで遠征せず、身近な埼玉県にこういう巨大魚がいることに驚かされます。掛けることやファイトも大変ですが、もっと大変なのはリリース。巨大ラバーネットなどの準備が大変でした

「いい釣りをいつまでも。」に込めた思い

<若林務さんインタビュー>

ミスター・ゲームフィッシュ。

東京水産大学卒業という背景を持ち、全ジャンルの釣りをこよなく愛する若林務さんは、

日本のスポーツフィッシング・シーンを知り尽くした人であり、

タグ&リリースという研究手法を広く定着させた功労者でもある。

JGFA事務局を長く統括されてきた氏に、お話を伺った。



1986年7月13日に釣ったマカジキ44kg。ファーストマーリンだった

JGFA(以下**JG**)：若林さんたちがいっせいにJGFAにお入りになったきっかけは、どんなものだったんですか？

若林務(以下**TW**)：岡田名誉会長は大物釣り師なんですが、JGFAを立ち上げたあと、ライトタックルやフライの人たちにも「皆さんも入ってくださいよ、いっしょにやりましょう」といろんな人に声を掛けたんです。副会長の丸橋英三さんは最初からメンバーでしたが、いまもご活躍の北村秀行さん、徳永兼三さん、アングラーズハウスの北川明さん、そして私たちにもコンタクトがあったんです。

JG：古山さん、若林さんたちの「レッドヘッダーズ」は、クラブ登録番号が2番ですが、1番はどこですか？

TW：ジャパントローリングクラブ。3番は徳永さんの「アルバトロス」です。クラブ創設の順番ではなく、1985年当時のJGFAへの申込み順ですよ。

JG：この、黄色いフネの前に吊り下がっているカジキには、どんなストーリーがあるんですか？

TW：大島の東側で釣った魚です。JGFAの初代会長だった大西英徳さんのボートに乗せてもらって釣った、86年のファーストマーリン。85年にJGFAに入会して、大西さんのフネの乗船券が当たったんです。当時の同僚だった石丸さんに「いっしょに乗ろうよ」と誘って乗せてもらった。

JG：大西さんはどんな方でしたか？

TW：とってもやさしくてフランクな方でした。シーボニアというマリーナのマンションに角部屋をお持ちで、自分の黄色いボート、ミス・セイバーが真下に見える。89年には、大西さんのお仲間たちと10人くらいで斐ジーに行きました。そのときに「そろそろ協会事務局に来てくれないかな……」という申し出があったんです。いまも続く東京ベイ・シーバス・ゲーム・フェスティバルは85年くらいに始まったんですが、タグの管理や取りまとめがだんだん大変になってきていた時期です。

JG：そもそも、JGFAとタグ&リリースの接点とはどんなもので？

TW：1978年、大西さん、岡田順三さん、西川龍三さんの3名がハワイのHIBTに別々に参加され、その時にタグ&リリースを目の当たりにして、カジキ釣り大会とタグ&リリースを日本でもやりたい、ということでJGFAが設立されたのがきっかけと聞いています。

JG：さいしょはタグ関連のこと、魚類資源のことに関する活動がお仕事のスタートだったわけですか？

TW：そうです。もちろん記録管理の団体ですからそこもおそらくにはできないですし、年に1回の「イヤーブック」も必ず作りたい。入った途端にイヤーブック、タグ&リリースのハンドブック、IGFAルールを説明する冊子などの製作に追われましたねえ、なかなかの仕事でした。これらは、しっかりとした事務局がなかったらできることでしたよ。

JG：若林さんの教育的バックグラウンドは、水産でいらっしゃいますよね？

TW：はい、東京水産大学(現東京海洋大学)で陸水学の勉強をしました。いわゆる淡水のことですね。プランクトンに興



古山輝男さんと、外房にて1982年。ウェットスーツを着て濡れに行く世界



栃木水試に在籍していた1975年、川俣湖において縦刺し網で捕ったニジマス

味があつて入ったのですが、水産大には淡水区水産研究所の古田能久という方が講師としてきていらっしゃった。相模湖のプランクトン調査をずっと行われてきた人です。その古田先生が「プランクトンやりたいなら相模湖がいいと思うけど、あそこにブラックバスっていう魚がいるんだよ。あんた釣りが好きなら、それを材料にするのはどうだい?」とおっしゃつたんです。結局ブラックバスを卒論のテーマに選びました。

JG:まだ、バスを研究するという人はいなかつたですか?

TW:私の知る限り、学生ではいなかつたですね。相模湖に通いこみましたが、現地のボート屋さんにはほんとうにお世話になりました。小さなお店で「のんき」という名前でしたね……それから、卒業して栃木県の水産試験場に就職したんですよ。研究生で大学に残ろうと思っていたんですが、3月に急に欠員が出た、ということで古田先生から紹介がありました。バタバタで住むところも決まっていなかつたから、寝袋を持って5月に栃木に引っ越したんです。

JG:どんな研究対象が待っていました?

TW:中禅寺湖のとなりに川俣湖っていう人工湖があります。人工湖がテーマになりました。急深の人工湖は魚にとって厳しい環境なのですが、果たしてヒメマスなどを放流して定着するのかどうか。13°Cくらいの層が必要なんですが、人工湖は水の出入りが激しくて、真夏はその水温の層がなくなってしまいがちで、日本でヒメマスが定着しているのは九頭竜湖をはじめほんの少しなんです。

JG:着任された栃木の水産試験場で、川俣湖でのヒメマス生存可能性を探ったわけですね。

TW:はい。「縦刺し網」っていうのを考案しましたよ。幅は5メートルなんですが、いくつもつないで縦にぶら下げる。夕方に仕掛けて翌日上げると魚が掛かって泳層がわかります。減水したときは生き残れないことがわかりましたよ。ニジマスの大きいのは、酸素さえあれば10°Cくらいのところまで潜ります。イワナとヤマメは、16°Cくらいのところがいちばん多かったです。たぶん、住める水温の範囲内でエサがいちばん多い層を選ぶんですね。

JG:もちろん川では、物理的環境によって棲み分けをしますが……

TW:湖ではけっこう混棲していますよ。

JG:その後水産試験場をお辞めになって、山小屋勤めなどを経て、釣具メーカー／問屋にお入りになったというわけですね。

TW:はい、スミスという会社です。ほぼ同時に入ったTさんという方がフライの人なので、バスは私という感じで仕事を分担しました。セミナーなどもたくさん企画しました。

JG:若林さんたちが企画されたブランド「スーパーストライク」では、プロセス重視、1尾重視の釣りを提倡されていたと記憶しています。それは、JGFAやIGFAが根本に持つ精神とは一直線上にあると思いますね。話は変わりますが、若林さんがこれまでに釣ってきて、思い出にある釣りや魚の話をすこし聞かせてくださいませんか?

TW:大学の時はサーフキャスティングが好きで、オリムピッ



1978年本栖湖のスーパー・ラウンド。
78cm 5.6kgあった

「いい釣りをいつまでも。」に込めた思い



1991.6.23-25.第2回グアムビルフィッシュトーナメント優勝

クが出していた「キューバ」とか「アマゾン」という、一世を風靡したグラス竿があるんですが、長さを詰めたり大口径ガイドを付けたり、改造して使っていました。でも相手はシロギスなんで、大物を釣ったっていうことはありませんね。記憶に残る魚を選ぶとすればまずは、1978年4月に本栖湖でトップウォーターで釣ったブラウンですね。78センチ、5.6kgありました。スミスに入社する前のこと、この記事を『フィッシング』誌に載せたら「スーパーブラウン」っていう名前が急に広まり、多くの人が注目しました。この魚を釣り上げる前、12月の本栖湖に行ったときのことです。遠くで釣っていた仲間が腕を大きく広げながらこっちに歩いてきて、両手を合わせて「尻尾…シッポ…」って言うんです。「こんなシッポした魚が、オレのルアーの周りをぐるっと回ったんだよ！」

JG:でも、冬の本栖湖はキビシイですね、寒くて。

TW:僕たちもいやになって、その水温が再現される春のタイミングを狙うようにしました。そうしたら、凄かったです。飛ばしにくいレベルのミノーで、太めのモノフィラと硬め

のロッド、ベイトタックルで釣り上げたのがこの魚です。溶岩帯ですから、6ポンドや8ポンドといったラインは怖くて使えないんです。

JG:人さえプレッシャー与えなければ、魚はたいへんな浅場に来ますもんね……

TW:この魚の後に上げた60センチなんて、ホントに何十センチの浅いところで釣りました。

JG:ゲームフィッシュ、スポーツフィッシュの話をしたいんですが。若林さんが考えられる「ゲームフィッシュ」とはどんなものですか？ 拡大解釈すれば、アマチュアの釣りの対象魚はぜんぶゲームフィッシュといえないこともないわけですよね。階級社会の反映だと思いますが英国では、淡水の鮭鱒をゲームフィッシュ、それ以外はコースフィッシュないしラフフィッシュつまり格下の魚という捉え方をするわけです。米国ではその枠が緩んで、「釣りの対象魚としての楽しさ、大きさ」でゲームフィッシュを定義するような感じだと思います。

TW:基本的に、釣りの対象となる魚はゲームフィッシュと考えていますが、そのなかで釣っておもしろい、好敵手となりうる魚をスポーツフィッシュと言うこともできるのではないかでしょうかね。IGFA「インターナショナル・ゲームフィッシュ・アソシエーション」は釣魚の団体であって、釣りの団体ではないんですね。釣りの対象魚について調べる、データを蓄積するということを目指して生まれた。鉄砲撃ちの方は、大型の獣を「ビッグゲーム」と呼びますが、「ゲームフィッシュ」という呼び方もそこから来ていて、「獲物の魚」という意味でしかないんですね。

JG:コンピューターゲームの「ゲーム」とはずいぶん意味合いが違ってしまう。

TW:そうです。ゲームフィッシングも「(いわゆる)ゲームみたいな釣り」というのではないんですね。私個人の話をすれば、



大分県のカワハギ。尺超えの31.5cm



オールタックル・レンジスレコードになった
全長60cmマゴチ



1997年にはパラオに釣り調査に出かけた。
カスミアジをプラグで釣る



2006.10.25.IGFA殿堂授賞式・IGFAトップと



2006年、IGFAロブ・クレイマー会長のオフィスにて

幼稚園のときのハゼ釣りから、いまのフナ釣りまで、ぜんぶ真剣なゲームフィッシングなんです。これからは、すべての釣り対象魚をゲームフィッシュと捉え、それらの価値を認め、釣り文化も含めて資源を大事にしてゆくという方向が大事なんではないでしょうか。

JG:ルアー釣り、フライ釣りではないとゲームフィッシングではないという解釈もあるようですが、それに関してはどうですか？

TW:「エサ釣りなんかするんだったら破門だ！」っていう団体もかつてはあったようですが、それはちょっと了見が狭すぎると思いますね。対象魚の個性を重んじる釣り方で、かつ魚と釣り仲間の両方に対してフェアであれば、すばらしいものだと思います。たとえば渓流でルアー専用区、フライ専用区、えさ釣り区と分けられるのは、お互いが摩擦を起こさないために必要な場合もあると思いますが、メソッド自体に優劣があるわけではない。

JG:いまは、湖や川でルアー釣りをやっていた人たちがエサのかワハギをはじめたりヘラ釣りにはまったり、垣根がまた取り去られてきている感じはありますね。

TW:IGFAルールはすばらしいもので、さまざまなメソッドに共通する理念と決まりを提示してくれます。JGFAも、それに則った記録認定と保存を行っているわけですが、日本の釣りを見渡してみると、IGFAルールではすくい取れない魚もたくさんいる。日本の文化としての釣魚記録っていうのも、どこかがまとめて残しておくのが理想だろうと思いますね。

JG:「いい釣りをいつまでも。」というJGFAのシンプルなスローガン、噛みしめると味が出てくると思います。いい釣りというのは人それぞれだけれど、それを永続させるためには何ができるか考えましょう、という思いが伝わってきますね。これに関してはどんな思い入れが？

TW:たしか私が考えた文言だと思うんですよね(笑)。しかしこれはえんえん遠い道のりで、達成するためには皆が力を合

わせ、意識を高く持たないと、いい釣りなど維持できないですよ。アマチュアの釣りの質を維持・向上するためには、単純だけれど奥の深いこのスローガンをねに頭の片隅に置いておくと良いと思います。各人が自分のこととして、それを具体的なアクションにどう落とし込むかが大事でしょう。

JG:ちょっと具体的に引き寄せさせてください。若林さんにとっての「いい釣り」って何ですか？

TW:終わってきて、帰って、ほっとした雰囲気のなかで「今日はいい感じだったなあ」って思えるものですね。辛い思いをしてやるもの、修業としてはありなんですが、ぜんたいに幸せな雰囲気の中で魚とやりとりできた体験が、私にとってのいい釣りなんです。大物をねらう時もあるけれど、思い出に残っているのは必ずしも大きな魚との出会いだけではないですよ。

JG:具体的には？

TW:外房にヒラズスキを狙いにいて、「日本にもこんなフィールドがあったのか！」って思うくらいきれいな磯が目の前に展開していて、白いサラシの中に魚が突っ込んでくる光景とかは、強く印象に残っています。色とりどりの海藻が海の中に揺れていて、サンゴ礁の中にいるのかな、って勘違いしちゃうくらいキレイでした。いっぱい釣れるのがいい釣り、とは誰しも思うんでしょうが、私たちが外房で体験した一瞬っていうのも、思い出のトップに位置するくらいなんです。

JG:若林さんがこよなく愛される黒部の源流などもそうですね？

TW:黒部も、普通ではなかなか見ることができない光景を見させてもらいました。水面に浮かべたフライをめがけて、イワナが潜水艦みたいに浮かんでくるんですよ。パクって咥えてそのまま沈んでいくので、並んでいる順に釣れてくる。自分が想像した以上のものに遭遇すると、誰だって感動しますよね。もう60年以上釣りをしていますが、やっぱりそういう特別な体験は大事にしたい。

JG:若林さんのデータノートのことを教えてくれませんか？

「いい釣りをいつまでも。」に込めた思い



若林さんが愛する、黒部源流の風景



2011年9月に釣った、秋化粧の黒部イワナ

TW:10年以上、釣りに行く度に書いた日誌があります。釣りスタート時の気温、終了時の気温、船釣りであれば他の人がかかったポジション、自分が釣れたポジション、仕掛けのことなど細かく書いてあります。記憶だけだと、あいまいになってしましますのでね。たとえば来週その釣りをやりにいくという段階で、去年のノートを見返すとわくわくするんです。どんなふうに違ってくるんだろう、どう同じなんだろう、って。

JG:私は自分の記憶を過信していて、まったくノートを付けなかつたし写真もいい加減にしか撮っていないからですが、いまになって後悔しています。

TW:1年前のことでも、文字にしなかつたら覚えていないですよ。ハリス何号を何センチつかった、とかいうディテールはまったく記憶に残りません。しかしまあ、それは私なりの楽しみ方であって、皆さん全員にお勧めするものではないんですけどね。



オールタックル世界記録であるイズカサゴ 1.65kg

JG:几帳面な性格は、生まれつきですか？

TW:そうかも知れません。大学生のときは、試験前に講義ノートを友達に貸していました。

JG:日本の釣り場って、特殊ですか？

TW:狭い国にたくさんの釣り人がいますから、「釣り場の経営」という感覚はとても大事でしょうね。たとえば英国とかだと、ぜつたい入れない釣り場ってあるでしょう？

JG:サーモンの川ですが、そもそも皇族の持ち物とか、大人気でもう10年先まで予約で埋まっているとかは、ありますね。

TW:日本は、ほぼすべてパブリックな釣り場であることの良い面、悪い面があると思うのですが、ニーズに応じた釣り場と魚の質の管理が求められるのかも知れません。僕らが最初にスズキのタグ&リリースからはじめようと思ったのは、切実な危機感からなんです。

JG:さっきの話につながりますね。1980年代中盤ですね？

TW:そうです。1985年に古山輝男さんとレッドヘッダーズというクラブを作つてJGFAに入会するわけですが、その動機は「1970年代後半には船で足の踏み場もないほど釣れていた東京湾のスズキが、1984年ごろにすっかり釣れなくなってしまった」ということなんです。まだ、スズキをリリースするという考えはまったくなかった時代でした。1970年代、水銀汚染が理由で獲ることが禁止されていたスズキが1980年代に入って漁獲対象となり、網は入るし釣り人もやり放題。最初のころはナブラに投げれば釣れたのに、ピンポイントに打ち込まないと釣れなくなつたし、1日粘つても二桁釣れるかどうか。このままではいけないと思いました。そこで、スズキの生態を知つたうえで、こんなに楽しいシーバスフィッシングを何とか続けていくためにスズキの資源復活につながる活動をしたいということで、単なるリリースではなく、魚の移動や成長、分布域などを知ることができる、タグを装着して再放流することを考えました。JGFAに入会することになったのもそういう経緯です。ただ、その時点で

JGFAにはシステムができていなかったため、当時、東京湾のスズキの資源調査を実施していた東海区水産研究所の鈴木秀彌研究官のもとを単身訪ねて、こちらの意図を説明したんです。

JG:鈴木さんは、いまも協会の顧問をお願いしていますね。

TW:そうです。鈴木さんは「東海区水研のアンカータグがあるから、これを打ってみてはどうか」と、とんとん拍子に話が進み、せっかくやるなら、スズキ釣り大会を開いたらどうかということになりました。1985年10月に日本で初のボートからのシーバス大会およびタグリリースが行われましたが、これが「東京ベイシーバスゲームフェスティバル」の始まりとなり、スズキにタグを打つことを勧めてくれた鈴木さんも視察に来てくれましたよ。

JG:若林さんは、黄金期とどん底期の両方を、短期間に体験されているのでお話を説得力がありましたね。

TW:船橋の漁師さんとも話をしましたし、彼らは私たちのことを理解してくれています。漁業者と釣り人の相互理解があり、現代でもきちんと釣りが成立している魚として、スズキはすばらしいですね。

JG:スズキは100%野性魚ですよね？

TW:そのとおりです。千葉県で稚魚放流をやったんですが、ぜんぜん定着しないですね。マダイやヒラメはうまく行っていると思いますが、スズキは成功していません。これを大事にしなかったらどの魚を大事にするんだ！と思います。

JG:魚を守るために、いくつかの車輪を同時に駆動しなければならないと思いますが……

TW:顧問の水口憲哉先生も言われますが、大前提は環境です。「それをしっかりと守れば魚は戻ってくる」って、おっしゃいますね。しかし、私や古山さんたちが1980年代に目撃したように、せっかく戻ってきた魚を漁師や釣り人が捕りまくってしまうなら、すぐに元の木阿弥です。そういう意味で、持ち帰り制限＝バグリミットっていうのも大事な考え方だと思います。

JG:釣り人がまず始められる魚資源に対する貢献ということで、リリースやタグ＆リリース、そしてバグリミットの自主採用があるわけですね。

TW:日本の釣りを考える団体として、大きな意義があったことだと思います。若い世代の方々も、この基本理念を噛みしめもらいたいです。説得力のある理論を知識として持ち、要請があれば対話や講演にいく。そんなメンバーが出てきていただきたいと思います。

JG:これから協会に期待されることはそういうことですか？

TW:はい、今までの土台のうえに、釣り界や行政に発言力を持ち、信用される人材が増えて欲しいです。理論と実践を兼ね備えた会員、役員、スタッフが出てきてくれるよう望んでいます。

JG:リタイヤ後の趣味は、なにをなさるご予定ですか？ ピギナーとしてなにかまったく新しいことを始めるとか？

TW:それはないと思いますが、体力がある限り山歩きは続けていきたいですね。

JG:多方面にわたる興味深いお話を、本日はありがとうございました。

[メールアドレスご登録のお願い]

返信締切日:2023年3月末日

協会の活動および会員サービスにおいて、電子メディアの必須度が年々増し続けていることを受け、効率的なご連絡手段としてEメールも活用することになりました。

お手数ですが、会報の住所ラベルいちばん下に6桁ないし7桁で印字されている皆様の会員番号とお名前、Eメールアドレスを、右記いずれかの方法によりご登録をお願いいたします。
(JGFA役員、理事、アンバサダーの皆様は、すでに情報がありますのでご対応は不要です)

収集しました情報は:

- 1) 厳重なセキュリティ手段を活用して管理します。
- 2) 事業目的の遂行のために必要な範囲でのみ利用します。
- 3) 本人への同意なく第三者へ開示・提供いたしません。

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目22番8号
日本フィッシング会館 4F
NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会

(1)QRコードを活用される場合:

コードを携帯端末で読み込み、表示されるフォームに必要事項をご記入ください。



(2)協会アドレス宛てに直接ご返信いただく場合:

標題を「○○メールアドレス」(○○は貴殿のお名前)としたうえで、以下の宛先まで、会員番号とお名前、Eメールアドレスをお知らせください。

info@jgfa.or.jp



SEABASS C&R PHOTO CONTEST RESULT

シーバスC&Rフォトコン 結果発表!

去る2022年10月1日～11月30日の2ヶ月間にわたって全国を舞台に開催されました
 「JGFAシーバスC&Rフォトコンテスト」が終了しました。全国No.1は、東京湾で釣られた又長88cmでした!!
 詳細および結果ダウンロードは、JGFAウェブサイトのHOT NEWSコーナーからどうぞ!



今年は東京湾からラーー全国1位が出ました！ 関東&中部ブロックでも優勝。石丸巻夫さんの又長88cm、エントリー期限ギリギリでのキャッチ



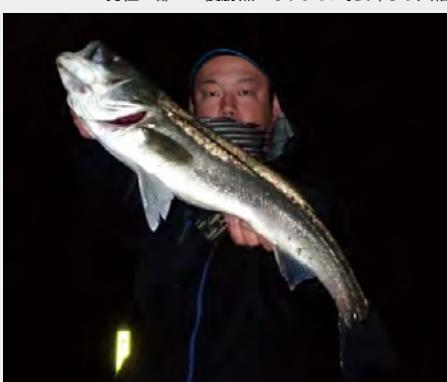
東京湾の羽田沖で和氣恒久さんが釣った又長81cmがフライ全国優勝に輝きました！ 去年よりサイズアップの連覇おめでとうございます



新潟県の釜谷漁港で渡邊泰介さんが釣った又長85cmが、北海道&東北&信越・男性の部での優勝魚となりました。去年より大幅にサイズアップ！



引地麻依子さんが東京湾で釣った又長77cmが関東&中部ブロック・女性の部の1位に輝きました



石川県大野川で、橋宏樹さんが釣った又長76cmが北陸&山陰ブロック・男性の部を制覇



吉田将悟さんが徳島県旧吉野川で釣った又長81cmが、近畿&山陽&四国ブロック・男性の部で1位となりました！



九州&沖縄ブロック・男性の部を制したのは、大分県大野川で又長80cmを釣った平松穂二さん。連覇おめでとうございます

【ルアー全国総合】表彰：1～3位

順位	魚種	又長(cm)	氏名	クラブ名など	釣った日	釣った場所	ポート	窓口ショップ	使用ライン(kg)
1	スズキ	88	石丸 巾夫		2022-11-27	東京湾			15
2	スズキ	87	奥山 尚樹	フィッシュ&フィンズ	2022-11-23	神奈川県横浜沖	Seakuro		15
3	スズキ	85	渡邊 泰介		2022-11-14	釜谷漁港			10

【フライ全国総合】表彰：1～3位

順位	魚種	又長(cm)	氏名	クラブ名など	釣った日	釣った場所	ポート	窓口ショップ	使用ライン(kg)
1	スズキ	81	和氣 恒久	サバロ	2022-11-07	東京都羽田沖	シーバースターズ	シーバースターズ	8
2	ヒラスズキ	77	伊原 武志	レギュラー会員	2022-10-20	徳島県海陽町			10
3	スズキ	66	赤星 明彦		2022-11-09	愛知県名古屋港	明康丸		3

ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



ユニコン エンジニアリング(株)



賛助会員募集 「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典**
- 1.賛助会員主催のイベントを後援します。(ただし後援規定に基づくイベント)
 - 2.実費プラス手数料で、会社パンフ、アンケートなどを会員に発送するDMサービスをご利用いただけます。
 - 3.JGFAイヤーブックに紹介記事が載ります。
 - 4.JGFA NEWS(年4回発行の会報)とホームページにロゴマークが載ります。
 - 5.代表者と担当者の2名は、JGFA及びGFAの会員として登録されます。
 - 6.代表者は、JGFAのパーティーにご招待します。

会費 1口 100,000円(1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先:JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカーワイヤーもタートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり2000円します。年間500セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様にお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんでしょうか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力ををお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名:みずほ銀行 恵比寿支店
口座名:「タグ アンド リリース活動資金」
口座No:(普)1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、
ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2022/11/16	長舗 賀一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2022/11/30	長舗 賀一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2022/12/1	長舗 賀一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2022/12/11	標 信男(レギュラー会員)	3,000
2022/12/14	長舗 賀一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2022/12/16	東京ベイシーバスゲームフェスティバル実行委員会	35,414
2022/12/17	サバロ口事務局	2,200
2023/1/22	登地 修(レギュラー会員)	6,000
2023/1/28	長舗 賀一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/2/1	林 淳昌(エイビーライン)	10,000
2023/2/9	クラブピッグワズ	20,000
	合計:	171,614